様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号　18094　学校名　葉山中学校　氏名　橋本知加

研究の背景

研究対象（学年、クラス等）　2年　生徒数　41　名

科目名　2年　単位数（授業時数）　3　時間　使用教科書名　New Horizon English Course 2（東京書籍）

クラスの様子・特徴

全体的には、声も大きく学習意欲もある学年である。しかし、すでに英語に対する苦手意識を持ち、受け答えの際、声が小さく、うつむき加減で自信がない表情の生徒もおり、格差が見られることが課題である。

問題の確定

英語が「好き」「普通」と答える割に、「得意」な生徒は少数であり、「書くこと・話すこと」に苦手意識を持っている生徒が多い。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
自信のない生徒は声が小さく、教科書にカタカナ表記していた。音読練習の繰り返しで、飽きる生徒や、ALTの発音などに従い、読める生徒は一部だった。簡単なQ＆Aに答えられず、分かっていても単語が分からず、書くことに時間がかかる生徒も見られた。	英語に関するアンケート調査　（2006．6月実施）①英語が好き・普通　98％　②英語が得意・普通　68％　③英語で一番苦手な分野は？　書くこと23名　話すこと10名　④英語で一番得意な分野は？　読むこと20名　書くこと10名	＊CRT分析結果　2006年2月実施「書くこと・全国比116」が一番高く、一番低かったのが「聞くこと・全国比98」だった。＊NRT分析結果　2006年4月実施　「聞くこと・全国比102」が一番高く、「話すこと・全国比91」が一番低かった。

リサーチ・クエスチョン

生徒の興味・関心を持たせる授業の工夫～ペア学習を通して、基本文に対する応答文を書けるようにするにはどうすればよいか～書くことの苦手な生徒たちに、教科書のポイントや内容を把握し、自信を持って書けるようにするためにはどうすればよいか？

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
warm-upで簡単な活動を取り入れれば（歌・ゲームなど）英語に対する興味・関心を持ち、クラス全体も発言しやすい雰囲気になるだろう。 活動ごとに、生徒個人が目標規準の設定（音読筆写の回数・単語テスト・Q＆A　writing・習った単語の連続正解数など）をすることで、生徒たちは目安になり、意欲を高めることにつながるのではないだろうか？	ビンゴゲームや英語の歌・warm－upゲームなどを取り入れ、クラス全体が発言しやすい雰囲気づくりに気をつけた。 Search Word Puzzleやリスニングゲームでは、授業の始めに集中させ、落ち着いた雰囲気をつくりたい時に行った。 また、活動ごとに生徒自身が目標規準の設定を行い、目標を目指して頑張るように意欲を持たせた。	どの活動も、生徒は8割ぐらいは楽しくできていたようだ。リスニングやゲームでは、答えが分かっていても単語が書けず、スペルミスがあった生徒もいた。Search Word Puzzleでは、問題以外の単語を見つけたり、時間延長を要求するなど思ったより集中してできていた。 各々の活動の目標を立てることで目安となり、活動後も生徒自身具体的な課題が見つかり、反省できていた。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
ペアワークの活動（リーディングなど）に取り組んでいけば、声が出やすくなり、助け合いながら競い合い・高め合うことにつながるのではないだろうか？ また、継続して、簡単なQ＆A活動に取り組めば、応答にも少しずつ慣れ、基本文の定着にもつながり、英文に対する抵抗がなくなるのではないだろうか？	ペアリーディングやシャドーイングなどを取り入れ、リーディングの仕方を工夫した。授業の始めにQ＆A活動のSpeakingを行ったり、5～10分間教科書の基本文をQ＆Aのプリントにし、できるだけアンダーラインの部分を変えて表現させ、自己評価させた。1学期から実施し、2学期も継続して行った。 また、基本文を声に出しながら、writingする音読筆写にも取り組んだ。	リーディング方法の工夫で、何回も練習をすることができた。Q＆Aを繰り返す中で、簡単な質問にほとんどの生徒が答え、＋αで答える生徒も多くなっていった。工夫した答えが聞かれたり、どの生徒とも協力して男女ともにペア活動できるようになっていった。 また基本文を音読筆写することで、文の語順が定着し、並べかえ問題も少しずつ良くなってきた。 定期テストの正答率は平均77％の結果だった。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
定期的に、単元ごとの小テストや単語テストを行うことにより、語彙力が高まるのではないだろうか？ また、継続的にDictationを実施し、英文に慣れさせ、語順に対する認識を持つことで、正しく書く力が身につくのではないだろうか？	単元ごとに、小テストや観点別テストを行い確認した。1学期からの単語テスト(5問)を継続することで語彙力の定着を図り、定期テストでも単語の一覧表を設け連動させた。ALTのDictation（Q＆Aのwriting・コミュニケーションプリント）や音読筆写を行うことで、語順に対する認識を持たせた。また、習った単語をできるだけ多く書き、正解率を競う単語ゲームにも取り組み、語彙力の定着にも努めた。	継続している単語テストでは、生徒には負担も軽く、回を追うごとに満点が増え、「効果的だった・・」と答える生徒もいた。しかし定着できない者もいたため、単語ゲームで更に語彙力の定着に努めた。Dictationや音読筆写で、文への語順を意識づけさせることができた。Q＆Aのwritingでは、簡単な質問にはミスが少なくなったが、少し難しくなると文法ミスや空白になることが多いため、継続の必要性を感じている。

研究の成果

ペアの形もスムーズにでき始め、簡単な質問にはミスが少なくなり、＋αで答えようとする生徒が徐々に増えてきた。また、各々の活動が一区切りする度に、成果や課題を書かせたが、各自の課題を具体的に見つけることができるようになってきたのも成果だと思われる。苦手な生徒も少しずつだが、単語テストを目標に、継続した取り組みができた。小テストがきっかけとなり、英検にも挑戦し、自信につなげる生徒や「いろいろやって飽きなかった」という生徒もおり、少しずつだが興味・関心を持った生徒がでてきたことも成果の一つであると思う。

今後の授業改善の課題

語順を定着させる方法の一つとして、教科書の基本文writingを挙げていたが実施できていないので、今後実施する予定である。また、教科書のQ＆Aも取り入れ、今後も取り組んでいきたい。しかし、すぐに効果が現れるわけではなく、取り組みを継続させながら、苦手なものを少しでも克服できるように手助けしていきたい。どれもまだ不十分だが、生徒の意欲をなくさないように次へのステップにつなげていきたいと考えている。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　0889-56-3116　電子メール　hayama-j@kochinet.ed.jp